

九谷焼の陶工・石野竜山〔I〕

木 村 弘 道

初 代 石 野 竜 山

序

初代・石野竜山は文久元年に石川県河北郡八田村に生まれ、幼名を兵太郎といった。

若年より絵画を中濱龍淵および垣内雲嶙に学び、陶画を八田逸山に習い、明治16年陶画業を自営した。

繊細緻密な人物や山水・花鳥を描き、技巧は群を抜いていたが、さらに明治31年松原新助に就いて製陶を研究し、同35年より上絵釉でもって釉下彩に彷彿とした黄彩・緑彩・染付藍・茶褐釉・淡緑釉・桜色氷裂釉・真珠釉等を発明しその技術をますます洗練し、文様に工夫を凝らし高尚な作品を作り、大正5年石川県より実業功労者として表彰せられ、昭和6年帝展推薦となった。

その間、宮内省および各宮家や貴顕あるいは官公衛より屢々用命を受け、技倆円熟し幾多の後進の指導にも当たり、九谷焼業界の重鎮として活躍していたが、昭和11年歳76で病死した。

以上が初代竜山のごく簡略な輪郭である。竜山は確かに九谷焼の名工の一人として有名であるが、竜山の伝記等もまだまとめられたものもなく、その研究は今後に残された部分が多い。

本稿は、竜山の履歴を加賀象眼で有名な9代水野源六がメモした書類が、たまたま水野家の資料調査中に今度発見されたので、先ずこのメモを出来るだけ原文を生かしながら一応年譜的に整理して紹介し、以下これを頼りに竜山の業績を順次に闡明したい。

履歴書

原籍 石川県金沢市西町3番丁

現住所 同所

職業陶磁器画工 氏名 石野竜山

雅号竜山

文久元年6月10日生

履歴事項

- 明治12年 陶画工八田逸山師ニ就キ陶画ヲ修ム
- 明治12年 中濱師ニ就キ南画ヲ学ブ
- 明治16年 自営ス
- 明治18年 金沢陶画工組合評議員ニ選挙セラレ
- 明治20年 石川県第4回物産品評会ニテ2等褒賞ヲ受ク
- 明治25年 大日本窯業協会ニ入会ス
- 明治27年 第5回関西府県聯合共進会出品奨励員ヲ知事ヨリ囑託セラレル
- 明治28年 第4回内国勸業博覧会ニ有功3等賞ヲ受ク
- 明治29年 金沢^(マツ)弘設陶漆器品評会事務員ヲ市長ヨリ囑託セラル
- 明治29年 同品評会陶器部審査員ヲ市長ヨリ囑託セラル
- 明治29年 同品評会閉会ニ當リ市長ヨリ慰勞賞ヲ受ク
- 明治29年 金沢陶画工組合副頭取ニ推選セラル
- 明治29年 富山県工業品評会ニテ有功賞銅牌ヲ受ク
- 明治29年 石川県知事ヨリ陶器勸業諮問員ヲ委嘱セラル
- 明治30年 第6回関西府県聯合共進会ニテ3等賞ヲ受ク
- 明治30年 金沢陶画工組合正頭取ニ推選セラル
- 明治30年 石川県工業学校工藝諮問会員ヲ委嘱セラル
- 明治30年 金沢商工会幹事ニ選挙セラル
- 明治30年 石川県工業諮問会員ヲ委嘱セラレ今日ニ至ル
- 明治31年 特別賞ヲ受ク

明治32年 東京美術協会へ入会スル
 明治32年 商工同業組合副組長ニ推選セラル
 明治32年 石川県重要物産共進会出品奨励並ニ取扱委員ヲ委嘱セラル
 明治32年 同共進会審査員(ヲ)会長ヨリ依嘱セラレタリ
 明治32年 日本美術展覧会ニテ褒状2等ヲ受ク
 明治32年 第7回共進会出品奨励員ヲ委嘱セラル
 明治32年 日本美術院大坂共進会総裁ヨリ褒状2等ヲ受ク
 明治32年 農商務省御買上トナル 白竜画花瓶
 明治33年 全国貿易品博覧会ニテ有功3等賞銅牌ヲ受ク
 明治33年 第7回関西府県聯合共進会ニテ4等賞褒状ヲ受ク
 明治33年 日本美術協会美術展覧会ニテ2等賞褒状ヲ受ク
 明治33年 石川県勸業諮問会員ヲ依嘱セラル
 明治34年 全国窯業品共進会ニテ3等賞銅牌ヲ受ク
 明治34年 第5回内国勸業博覧会出品協会本部評議員ヲ嘱託セラル
 明治35年 石川県工業学校工藝諮問員ヲ嘱託セラル
 明治35年 全国製産品博覧会奨励員ヲ嘱託セラル
 明治35年 第8回府県聯合共進会審査員ヲ嘱託セラル
 明治35年 第2回全国博覧会ニテ褒賞受ク
 明治35年 石川県能美郡米外拾品共進会陶器部審査部長ヲ嘱託セラル
 明治35年 京都第2回製産品博覧会ニテ府ノ御買上ヲ得タリ
 明治35年 多年研究ノ上絵釉ヲシテ染付ノ如キ焼成ノ成績ヲ得タリ
 明治35年 石川県出品協会本部評議員ヲ嘱託セラル
 明治37年 内国製産品品評会ニテ2等賞銀牌ヲ受ク

明治37年 第3回全国製産博覧会出品奨励委員ヲ嘱託サル
 明治37年 石川県知事ヨリ内国博ノ役員慰勞トシテ銀盃一組ヲ受ク
 明治37年 石川県工藝諮問員ヲ嘱託セラル
 明治37年 宮内省調査局ヨリ戦捷紀念御紋章入杯^(*)ノ製作ヲ命セラル
 明治39年 凱旋紀念石川県製産品品評会委員ニ嘱託セラル
 明治39年 同品評会審査員ニ嘱託セラル
 明治39年 戦捷紀念博覧会ニテ1等賞ヲ受ク
 明治39年 能美郡重要品品評会審査員ヲ嘱託セラル
 明治39年 宮内省ニ菊水模様香炉1個御買上トナル
 明治39年 宮内省御用命ノ御紋章入調度局へ上納ス
 明治39年 石川県出品協会常務員嘱託セラル
 明治40年 第9回関西府県聯合共進会ニテ3等賞銅牌ヲ受ク
 明治40年 同共進会ニ於テ有栖川宮殿下ノ御買上ノ栄ヲ賜ル
 明治40年^(**) 尚同会出品人総代ヲ嘱託セラル
 明治40年 東京勸業博覧会紀念3等賞銅牌ヲ受ク
 明治41年 京都第13回新古美術品展覧会ニ出品3等賞銅牌ヲ受ク
 明治42年 石川県ニ花瓶ヲ御買上得タリ
 明治42年 農商務省陳列館ノ参考品トシテ花生ノ製作ヲ命セラル
 明治42年 アラスカユニーコンシヤトル萬国博覧会ニ出品シ大賞ヲ受ク
 明治43年 金沢市出品協賛会ヲ設立シ評議員ニ推選セラル
 明治43年 第10回関西府県聯合共進会へ出品シ2等賞ヲ受ク
 明治43年 同出品香炉愛知県ニ御買上トナル
 明治43年 共進会出品中李王殿下御買上ノ光栄ニ浴ス
 明治43年 東京美術工藝展覧会ニ出品シ褒状ヲ受ク
 明治43年 侯爵前田家ヨリ献上品トシテ花瓶

ノ製作ヲ命セラル

明治43年 聖上陛下ニ献上品トシテ花生ノ製作ヲ命セラル

明治43年 金沢市商工会理事ニ推選サル

明治44年 前田家ヨリ貴顕ヘノ進物トシテ御買上ヲ得ル

明治44年 日英博覧会ニ出品シ銀賞ヲ受ク

明治44年 皇后陛下恩賜記念品ノ製作方学習院女学部ヨリ拜命ヲ受ク

明治44年 全国窯業品共進会ニ出品シ銅賞牌ヲ受ク

明治45年 伊太利博覧会ニ出品シ金賞牌ヲ受ク

明治45年 石川県物産陳列館商議員ヲ委嘱セラル

明治45年 奈良県陳列所ノ標本トシテ御買上ヲ得タリ

大正元年 第49回日本美術協会展へ出品シ3等賞銅牌ヲ受ク同品皇太后職ヨリ御買上ノ榮ヲ得ル

大正2年 第3回東京勸業博覧会ニ出品シ技藝3等賞銅牌ヲ受ク

大正2年 前田侯爵家ヨリ御買上ノ榮ヲ得ル

大正2年 一府八県聯合共進会ニ出品シ2等賞銀賞ヲ受ケ宮内省ノ御買上ノ榮ニ浴ス

大正2年 農商務省図案及ヒ應用作品展覧会ニ御買上ヲ受ク

大正3年 大正博覧会ニテ銀牌ヲ受ク

大正3年 第52回日本美術協会美術展覧会ニ出品シ3等賞銅牌ヲ受ケ同品皇太后宮職ノ御買上ノ光榮ヲ得タリ

大正4年 桑港万国博覧会ニ出品シ金牌ヲ受ク

大正4年 御大典御即位式京都記念博覧会陶器部審査員ヲ依嘱セラレタリ依テ金賞牌ヲ受ク

大正5年 石川県実業功績者トシテ表彰セラル

大正6年 第54回日本美術協会美術展覧会ニ出品シ2等賞3等賞及ヒ褒状ヲ受ク

大正6年 農商務省展覧会ニ出品シ褒状ヲ受ク

大正6年 第57回日本美術協会美術展覧会ニ

出品シ3等賞ヲ受ク

大正7年 第59回同展ニ出品シ褒状ヲ受ク

大正8年 第61回同展ニ出品シ3等賞ヲ受ク

大正9年 第62回……………

大正9年 皇太子殿下七尾港御寄港ノ節石川県ヨリ献上品トシテ花生御買上ノ光榮ニ浴ス

大正9年 第63回日本美術協会美術展覧会ニ出品シ3等賞銅牌ヲ受ク

大正9年 現代陶工品展覧会ニテ銀賞ヲ受ク

大正9年 日佛交換展覧会ニ指名出品ヲ命セラル

大正11年 石川県工芸奨励会ニ入会ス同上名誉会員トナル

大正11年 平和記念東京博覧会美術^部へ出品シ1等賞ヲ受ク

大正12年 皇太子殿下御成婚記念ニ石川県ヨリ献上ノ^{□□}ノ謹製方指名セラレ翌年県庁へ納付ス

大正13年 万国装飾美術展覧会ニ指名出品ス

大正13年 陸軍大演習三殿下ニ御献上ノ香炉ヲ知事ヨリ謹作ヲ命セラル

大正13年 商工省工芸展覧会ニテ3等賞ヲ受ケ宮内省御買上ニナル

大正13年 摂政宮殿下陸軍大演習御統監ノ節前田侯爵ヨリ御献上ノ花生謹製方拜命ス尚香炉謹製シ御献上方願出御嘉納ノ光榮ニ浴ス

大正14年 商工省工芸展覧会ニ出品シ3等賞ヲ受ク

大正14年 万国装飾美術工芸展覧会ニ出品シ3等賞牌ヲ受ク

大正14年 第3回全国^{窯業}共進会ニ出品シ2等賞ヲ受ク

大正15年 聖徳太子奉讃会ニ出品指名セラレ全会委員ニ命セラル

大正15年 米国フィデルヤフリイ博覧会ニ出品ヲ指名セラレ全会ニ出品シ大賞ヲ受ク

昭和2年 東亞博覧会ニテ功労賞ヲ受ク

昭和2年 侯爵前田侯ヨリ明年御大典ニ際シ御献上ノ花瓶謹製ヲ拜命シ翌3年9月納入ス

昭和3年 聖上陛下御成婚記念ニ当リ内閣文武官ヨリ献上ノ香炉謹製方拜命ス

昭和3年 秩父宮家ヨリ額皿御買上ノ光榮ヲ

得ル

昭和3年 東京御大典記念博覧会ニ出品シ優賞ヲ受ク

昭和3年 皇室御下命品美術学校長ノ手ヲ経テ花瓶ノ謹製ヲ拜命ス 11月謹製シ上納ス

昭和3年 日本工芸美術会ニ入会ス

昭和3年 秩父宮家ヨリ御献上ノ花瓶謹製方御下命ヲ拜ス

昭和3年 御大社記念博覧会美術^部出品ヲ指名セラル

昭和4年 秩父宮御下命ノ花瓶謹製ヲ経タルヲ以テ上納ス

昭和4年 佛蘭洲国博覧会出品指命セラル

昭和4年 皇室御下命品謹製ニ関シ羽二重一足御下賜ノ光栄ニ浴ス

昭和4年 前田家高松宮へ献上トシテ花瓶一對ノ謹製ヲ命セラル

昭和5年 同謹製品前田家へ納メタリ

昭和5年 金沢市ヨリ秩父宮殿下へ献上品ト

シテ花瓶1個謹製方命セラレタリ

昭和6年 帝国美術院ヨリ推薦セラレタリ

昭和7年 利栄寿万国博覧会ニテ大賞ヲ受ク

昭和7年 東伏見宮大妃殿下へ献上品ノ花瓶1個侯爵家ノ御買上ヲ得ル

昭和7年 東伏見宮妃殿下ニ種々御買上ノ榮ヲ得タリ

昭和7年 産業ト観光ノ大博覧会ニテ名誉金牌ヲ受ケ東久邇宮殿下へ献上品トシテ御買上ノ榮ヲ得ル

以上が水野源六のメモを基に再編成した初代竜山の経歴であるが、このメモはもともと源六個人の単なるメモであるため読解に苦しむ所も多く、文体も一定していない。また時には源六が書き写すときに誤記したところもある様である。

しかし竜山の研究には現在最もまとまった貴重な文献資料であることは確かと思われる。

(未完)